



〈連載(221)〉

マルチハル研究会の成果発表会
「マルチハルシンポジウム」を開催



大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授
池田 良穂

双胴船(カタマラン)や三胴船(トリマラン)などの多胴船のことを、英語ではマルチハルシップという。このマルチハルシップに関する研究会を、(社)日本船舶海洋工学会の中に立ち上げたのが3年前。正式には「マルチハル船のフィージビリティ検討研究委員会」という長い名前なのだが、略称の「マルチハル研究会」の方がとおりがよい。時限性の研究会なので、この3月には終了することとなり、その成果発表を行うシンポジウムを開催することとなった。せっかくマルチハルという一風変わった船種を扱っているのだから、それに相応しい催し物にしようといういろいろと考えていた時に、研究会の幹事をお願いしている西川氏(日本造船研究センター)から耳寄りな話を聞いた。琵琶湖に新しいマルチハル船が登場したというのだ。

日本最大の湖、琵琶湖には、外輪レストラン船「ミシガン」をはじめとして、たくさんの旅客船が就航している。そこに、この1月に仲間入りしたのがトリマラン型のクルーズ船「めぐみ」(正式にはローマ字表記のmegumi)だ。この船は、船内に1つだけホールをもち、120名程度までの会議、

パーティ、食事会などに利用ができるチャーター船で、陸上の会場とは全く雰囲気の違い、オリジナリティあふれる催し物が開催できる。

この船がトリマラン船型になったのは、なんといっても大きなデッキスペースがとれることと、十分な復原性を確保できるというメリットがあったからだ。



トリマラン船の元をたどれば、かつて南太平洋の島嶼間をわたっていたアウトトリ

ガー付の小型快速船にたどり着くが、そのコンセプトを現代の船に応用して、省エネでスピードが出て、かつ安定性もよいクルーズ船を誕生させたのである。この船の船体は軽いアルミニウムで造られているが、これも環境負荷を低減させている。船が軽いのでエンジン馬力も小さくでき、廃船後のリサイクルも容易だ。しかも、この「めぐみ」の中央の船体は、琵琶湖内を住民や観光客の足として長年活躍していたアルミ高速旅客船「インターレーケン」のものをリサイクルしたという。腐食に強いアルミ材料を使ったからこそ可能となった究極のエコシップと言える。この「インターレーケン」は、筆者にとっては思い出の船だ。筆者が、学生時代、大阪府立大学で「船」のことを教わった恩師の池田勝先生の設計によるウォータージェット推進の高速旅客船なのだ。この船体が、再び、最新鋭のトリマラン船の船体として蘇ったというのだから乗らないわけにはいかない。推進器はウォータージェットからプロペラ推進となり、速力も16ノットと遅くなったが、環境に優しい船となって再登場したことは嬉しい。

エンジンとしては、バイオ燃料も使える最新のディーゼル機関が新しく搭載され、太陽光を利用するソーラー発電装置、風を利用する風力発電機も導入して、複合的に自然エネルギーも利用して環境負荷を低減する配慮がなされている。このあたりも、これからの環境に優しいハイブリッドのクルーズ客船としての目玉と言える。

船内ホールの他に、広いオープンデッキが用意されているのもうれしい。心地よい湖上の風を浴びながらの爽快なクルージングが楽しめるからだ。このオープンデッキの最船尾端は、湖面にも手が届きそうな低

いデッキとなっていて、琵琶湖の環境観察や計測もできるように配慮された結果という。まさに地球環境時代にふさわしいクルーズ船と言える。

この「めぐみ」を運航するのは120年の歴史を誇る琵琶湖汽船。チャーター費用は、半日コースで30万円からとのこと。100人で乗れば1人3000円ということになるからきわめてリーズナブルな価格だ。琵琶湖中の19の港への寄港が可能だから、オリジナルなクルーズを、1人あたりの費用にするとずいぶん安い値段で楽しむことができそうだ。

ということで、来る3月25日の午後、大津港の「megumi」船上で、「マルチハルシンポジウム」を開催することとなった。シンポジウムでは、マルチハル船の特性に関する研究成果の紹介、「megumi」をはじめとする日本で建造されたマルチハル船の紹介。オーストラリアで建造された大型双胴ウェーブピアサー「ナッチャンRera」の性能と運航実績、トリマランの大型PCCのコンセプトデザインなど、盛りだくさんの講演を用意している。講演に疲れた頃には、「megumi」は夕刻迫る琵琶湖のクルージングに出港する。実際に走るトリマラン船の特性もじっくりと見学をしてもらえらると思う。大津港に戻ったら、船尾外輪船「ミシガン」に乗り移っての懇親会も企画している。日本船舶海洋工学会の会員以外の参加も大歓迎である。

詳しくは、案内が大阪府立大学工学部海洋システム工学科のホームページに掲載してあるので、ご参照いただき、できるだけ早くお申込みいただきたい。船上会議のため、定員は100名と限られているので。